注目のソーラーシェアリング

アルバテックが展開

申請手続きを代行

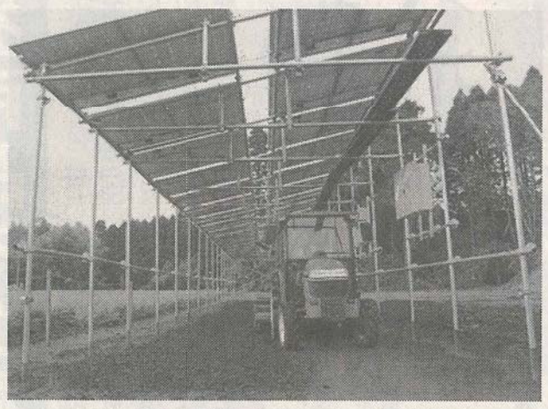
発電パック「SOLAR営農」全保証を標準装備

農地で営農を続けながら太陽光発電を行う「ソーラーシェアリング」は、農業の概念を変える技術として注目を集めているが、①煩雑な申請の手続き②長期間安定稼働できる設備が必要③農作物への影響に関する実証データの不足―などが普及のネック。太陽光発電システム販売・施工の㈱アルバテック（高木隆会長・大阪市北区浪花町12の24赤坂天六ビル）が東証一部上場企業の丸文㈱（東京都）と組んで推進する営農型太陽光発電パック「SOLAR営農（そらぁええの～）」は、こうした諸課題を解決、契約から売電までがワンパックとなったシステムとして話題を呼んでいる。

高木会長

「ソーラーシェアリング」は、農地に藤棚のような架台を設置し、農作物に一定の太陽光が当たるように隙間をあけながら太陽光パネルを並べることによって、営農を続けながら太陽光発電も行う仕組みだ。

昨年4月には農林水産省からガイドラインが公表され、ソーラーパネル架台支柱に係る一時転用許可の条件を満たせば「農業＋売電」が認められることになった。


各地で導入が進む「SOLAR営農」

導入する農家にとっての大きなメリットは、FIT（固定価格買取制度）を利用した売電による長期間の安定収入。25年度の売電単価37・8円で計算すれば、農地10アールで年間約180万円もの現金収入につながる。20年間にわたりこれが見込めるため、経済性向上による離農・後継者不足・耕作放棄地問題の解消にもつながる。また農地の資産価値向上、環境にやさしいエネルギー確保―なども魅力だ。

豪雪にも耐えた特許技術のキャストイン工法

しかし普及を妨げている要因もいくつか数えられる。とりわけ大きいのが、農地転用に係る農業委員会の許可など申請手続きの難しさだ。さらに自然災害や事故の補償、パネルや機器の保証等の問題がある。農機ディーラーがいまひとつ取り扱いを積極化できない理由の一つとなっていた。

営農型太陽光発電パック「SOLAR営農（そらぁええの～）」はこうした問題点を解消、太陽光パネルやパワーコンディショナーなどハードの提供に加えて、農地一時転用申請の代行や様々な保証および補償、施工サービスなどソフトも含めて「ワンパック」で提供できるシステム。そのため手続きに係るややこしさがなく、「申請から売電まですべておまかせ」が可能だ。

例えば申請面では、申請に必要な各種書式を標準化し、農地転用手続きに詳しい行政書士の支援もセットにして迅速に設置許可が得られるようにしている。また保証や補償面では、「利益を生み出すソーラーは、長期維持が大前提」（高木隆会長）との考え方のもと、ソーラーパネルについては25年間の出力性能保証があり、最初の10年間は90％以上を、後の15年間は80％以上を保証。また架台を含むシステム全体についても10年間のシステム機器保証があり、施工については対人対物賠償も含み10年間の施工保証を行う。

こうした保証の充実はパネルやシステム機器および工法に自信があるためで、特にアルバテックがもつ特許技術「キャストイン工法」は、風速36㍍という風圧耐久性や耐震基準をクリア、同時に容易に撤去可能な簡易な構造の支柱という農林水産省の規制に応えている。単管を使った基礎一体型工法で、耐久性も群を抜いており、甲信越地域への2年2月の豪雪でも、見事に雪の重みに耐えている。また耕作放棄地、コンクリート地面、山林傾斜地、日陰の狭小地などどんな所でも場所を選ばず設置できる。

価格面でも割安感を実現、出力12キロワットパッケージで税抜き420万円。4パックで出力48キロワットのシステムなら、年間で約200万円の売電収入を20年間得ることができ、およそ8年で初期投資を回収できる見込みだ。

こうした特徴から「SOLAR営農」は各地で人気を呼び、農山村での導入が活発化している。同システムが導入された千葉県山武市の48キロワットの営農型太陽光発電所は、2013年8月から一時転用の手続きを開始。9月に県の許可を得て、今年1月に稼働している。これについて同社・高木会長は「手続きでポイントになったのは、収穫量が8割以上維持できるかどうかの裏付けデータだった」として、その重要性を指摘。京都府福知山市や兵庫県丹波市において実証試験を行ってきた経験が手続きを進めるうえで役立っていることを指摘している。

現在、同社では取扱店を募集中。

▽問い合わせ＝アルバテック☎0120・354・552

サタケ マジックライスに2品追加

アレルギー原材料 27品目不使用

青菜ご飯、梅じゃこご飯

㈱サタケ（佐竹利子代表・広島県東広島市西条西本町2の30）は、非常食やアウトドアなどで美味しく手軽に食べられる乾燥米飯「マジックライスシリーズ」に新アイテムとして「青菜ご飯」、「梅じゃこご飯」（個食タイプと炊き出しタイプ50食分）を追加、5月7日から新発売する。いずれもアレルギー特定原材料等27品目（えび、かに、卵など）を使用しておらず幅広いユーザー層に対応している。保存期間は5年で、同社では年間販売目標をそれぞれ個食タイプ200万食、炊き出しタイプ40万食に設定している。

佐竹代表

「マジックライス」は、お湯を入れるだけで簡単に調理できる乾燥米飯で長期保存が可能なことから非常食として、またアウトドアや海外旅行等の携行食として数多く利用されている。

商品形態として、1人分ずつをパッケージした個食タイプと50人分を一度に調理できる炊き出しタイプがあり、今回それぞれのラインアップに「青菜ご飯」と「梅じゃこご飯」の新アイテムを追加するもの。

「青菜ご飯」と「梅じゃこご飯」の商品パッケージ（個食タイプ）

「青菜ご飯」は、大根菜のシンプルな味と鮮やかな色味が食欲をそそり、幅広い年齢層にお勧めの一品。

「梅じゃこご飯」は、かつおだしをベースにした和風の味付けで、さっぱりとした梅がアクセントになっている。

いずれも、えびやかに、小麦、そば、卵などのアレルギー特定原材料等27品目を使用していないため、幅広い層の消費者に対応できる特徴も備えている。保存期間は5年で希望小売価格は、いずれも個食タイプが320円（税抜き）、炊き出しタイプ（50食分）が1万4000円（同）。

新製品2アイテムの主な特徴は次の通り。

【特徴】①シンプルで飽きのこない味付け②アレルギー特定原材料等27品目不使用。炊き出し用タイプ段ボール箱にアレルギー物質の使用情報を明記しており、避難所等での利用に配慮③個食タイプでは、注水量を変えることでご飯とおかゆ（雑炊）の2通りの食べ方が選べる。災害時など食欲のすぐれないときでも、高齢者・乳幼児など年齢を問わず食べやすい、おかゆ（雑炊）調理が可能―など。

十勝農機 優れたカッティング機構

ポテトプランタ好評

十勝農機㈱（北海道河西郡芽室町西工業団地）は、優れたワンタッチカッティング機構を搭載した「全自動ポテトカッティングプランター」を発売、3月28、29の2日間、河東郡音更町にあるアグリアリーナで開催された「2014ニチノーグループ農業機械展」で展示し、好評であった。

「全自動ポテトカッティングプランター　とかちiPA―2・iPA―4」は、適期播種が迅速に行え、優れた施肥機構を持ち、省力、高能率、低コスト作業が可能で、さらに進化している。

特に注目されるのは、優れたカッティング機構。カッティングナイフとセンタープレートの取外し作業が工具なしのワンタッチで行える。さらに、小粒蒔きプレートが本体にドッキング、取外し作業をなくしている。

主な特徴は次の通り。

①ワンタッチロワーリンクによりトラクタへの脱着が安全にでき、スムーズ②駆動輪タイヤカバーによりタイヤを守り、同時に飛散する土からチェーンとスプロケットを守る③施肥・播種オープナーがドッキングし、畦の深さを同時調整できる④4点支持安全スタンドにより、点検・格納が安全でスムーズになり、タイヤの負担が軽減⑤フミフミローラー（オプション）により発芽に差ができ、施肥、種子・播種、種子踏み、均一な覆土、鎮圧に効果（その他オプション部品として、種子増枠、施肥増枠、補助施肥機、種子一体化タンク（標準タイプ・オフセットタイプ）、後方ステップ、後方ハシゴがある）。

「とかちiPA―4」の主な仕様は次の通り。

▽全長＝1920㍉▽全幅＝3240㍉▽全高＝1560㍉▽重量＝960㌔▽肥料容量＝150㌔×2▽種子容量＝100㌔×4▽畦幅＝66～75㌢▽株間＝25～45㌢▽施肥量＝10㌔当たり43～100㌔▽作業能力＝90～100㌃／時

展示会で好評な「とかちiPA―4」

防犯機器を開発

知的猛犬・番犬隊 吠え声と閃光で威嚇

スペックコンピュータ㈱（永山久社長・福岡市博多区榎田1の9の25）は、リアルな犬の吠え声と閃光で侵入者を威嚇する防犯機器「知的猛犬・番犬隊」を開発した。

無線式マルチリンク機能で、「番犬隊」のうち1頭（台）が侵入者を感知すると、ほかに配置された最大16頭の「番犬隊」が順次、吠え始める。これにより侵入地点が離れていても、家主や近隣住民に侵入者があったことを知らせる。複数台で互いに死角をカバーし、より完全な防犯体制を敷くことができる。電波到達距離は最大100㍍。

死角の少ない「知的猛犬・番犬隊」

人感センサーと光センサーで侵入者を感知すると、まず低い唸り声を発し、一定時間センサーが感知し続けると吠え声に移行する。音圧は約85㌫（前方3㍍）。同時に、LED（3ワット）2灯から閃光を発する。

農業機械や農作物の盗難対策、害獣の追い払い、広い敷地内の防犯、私有地への侵入者対策などに普及を見込んでいる。

電源はAC100㌭、防水規格IP44。動作温度はマイナス20度C～プラス70度C。本体寸法は高さ187㍉×奥行き164㍉×幅181㍉。

発売開始は6月下旬、オープン価格、初年度販売目標は5000台。販売店を募集中。

問い合わせは同社☎092・433・9913まで。

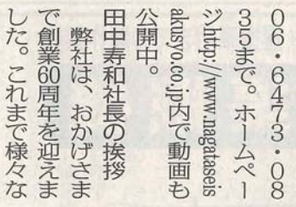
創業60周年で発売

5月上旬発売開始 ライトガン霧長（きりなが）くん

永田製作所

田中社長

㈱永田製作所（田中寿和社長・大阪市西淀川区千舟1の5の41）は1954（昭和29）年12月に創業し、昨年12月で創業60周年を迎えた。これを記念して霧の到達距離が長く軽量な「ライトガン霧長（きりなが）くん」を発売する。


軽量なライトガン霧長くん

435㌘と同社遠距離ピストルのなかで最軽量。取り付けネジはG1／4、全長260㍉、孔径2・0㍉、最大使用圧力3・0MPa。

3・0MPa時に直射で毎分水量12・2㍑、到達距離14㍍。噴霧で毎分水量5・9㍑、到達距離7・5㍍。1・5MPa時に直射で毎分水量8・5㍑、到達距離13㍍。噴霧で毎分水量3・9㍑、到達距離6・5㍍。

問い合わせは同社☎06・6473・0835まで。ホームページhttp://www.nagatakseisakusyo.co.jp内で動画も公開中。

田中寿和社長の挨拶

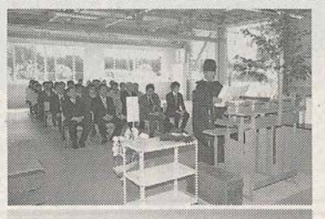
弊社は、おかげさまで創業60周年を迎えました。これまで様々なかたちで支え、応援して下さった皆様の貢献に深く感謝申し上げます。これからも伝統を継承し、商品とサービスを通して必要とされる企業を目指し発展してまいります。

田中営業本部長・談

今回紹介します新商品「ライトガン霧長くん」は、商品名の通り噴霧状で霧足が長く広角に散布できるため、防除作業の効率が良くなりました。これは先端ビッグフード効果を利用し、霧のスパイラル現象によりフード後方から大量の空気を吸い込むことで遠くまで霧を押し出します。また、各部に樹脂部品、アルミ部品を採用して本体質量も軽量化しております。野菜、果樹、花など幅広い防除作業のニーズに対応可能です。5月上旬より発売になりますので、是非一度お買い求めの程、よろしくお願い申し上げます。

新工場が落成みる

三陽金属 巴第1工場 新しい柱として期待



落成式のようす㊤と、働く人の環境にも配慮した巴第1工場

三陽金属㈱（五本上照正社長・兵庫県三木市鳥町301の1）が三木市別所町巴にある工業団地内に取得していた工場用地（同町巴28の2）に昨年11月から建設していた新工場「巴第1工場」が3月末に完成し、14日、現地で落成式があった。

式典には建設に携わった設計会社や建設業者、電気工事会社の各代表や日本政策金融公庫神戸支店の代表の出席のもと、同社の役員や新工場に配属予定の社員など関係者約30人が参加した。

新工場は敷地全体の面積が7214平方㍍で、今回の建物は延べ床面積999平方㍍の鉄骨造り平屋建て。屋根と外壁はともに断熱性の高いガリバニウム鋼板を使用するなど働く人の環境にも十分配慮した工場になっている。落成式後、機械設備を順次搬入し、今月28日から営業を開始する。

同工場では刈払機用の刈刃を中心に、好調な滑り出しをみせている新製品の刈払機用除草カッター「畑のシェーバー」や同「水草カッター」などの刃物を生産する予定。

同社では、今後は新工場を刈払機の周辺刃物を開発する開発部と、新規製品を製造する工場として位置付け、同社の新しい柱となる工場にしていく考えだ。

乗用溝切機は
OTAKEの のるたん®ネオ で行こう！
楽に、綺麗に。

株式会社 大竹製作所
本社・工場
〒490-1145 愛知県海部郡大治町大字中島字郷中265
TEL. 052(444)2525 (代)　FAX 052(443)0348
山形営業所 山形県鶴岡市 TEL. 0235 (44) 2816
福岡営業所 福岡県筑紫野市 TEL. 092 (919) 2810
広島出張所 広島県広島市 TEL. 090 (7600)2403

果樹関連機器特集

付加価値高める技術確立

全国各地で多様な品目が栽培され、東日本のリンゴや西南暖地の柑橘類など、各品目で特徴的な産地を形成している果樹農業。国内果樹の産出額は約7500億円と全農業産出額の1割程度を占め、果樹の主産地においては全農業産出額の過半を占めることも多く、果樹は主産地の基幹品目となっている。しかし近年、農家の減少や高齢化等から、果樹の栽培面積や生産量は減少しており、経営規模の拡大やスピードスプレヤー等の機械導入による労働時間の短縮が重要となっている。国もこうした生産基盤の強化を積極的に支援。注目集まる果樹関連の支援策や動向などをみる。

果樹高品質化に向け機器の研究開発が進む

農林水産省の「果樹をめぐる情勢」によると、平成24年における果樹の作付け面積は24万㌶、生産量は304万㌧となり、平成2年に比べて10万6000㌶（約30％）、185万㌧（約38％）減少した。各地域における生産者の高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加等により生産基盤が脆弱化していることから、果樹農業では次代の産地を担う意欲を有する農業者の確保・育成や、こうした農業者を核とした力強い産地づくりが喫緊の課題となっている。

また、果実の国内需要のうち、国産品は約4割で輸入品は約6割。さらに国内生産のうち約9割が生鮮用である一方で、輸入品の約6割は果汁等加工品が占めている。国内果実の需要を掘り起こすには、需要が増加している加工品への対応を含め、果実に対する消費者・実需者ニーズの多様化に対応した生産体制の確立が重要となっている。

このため、農林水産省では平成19年度から講じている果樹経営支援対策に加え、23年度からは未収益期間への支援策を実施。需要の変化を的確に捉えつつ、産地自らが策定した果樹産地構造改革計画に基づく優良品目・品種への転換、生産基盤の改善を推進するとともに、6次産業化等の産地の前向きな取り組みを支援している。需給安定を図るために計画的な生産・出荷、緊急的な出荷調整、優良品目・品種への転換を進めるほか、多様なニーズに対応した新品種の育成、付加価値を高める栽培及び加工技術確立、輸出促進、新たな川下需要に対応したサプライチェーン構築及び地球温暖化への対応などを推進していく。

力強い果樹産地作り
高所作業台車等で効率化
農業技術の基本指針

農林水産省は先に取りまとめた「農業技術の基本指針（平成25年改定）」の中で、果樹について、「力強い産地づくり」及び「加工品への対応を含め、ニーズの多様化に対応した生産体制の確立」が喫緊の課題としている。そのために、果樹経営支援対策や未収益期間への支援策により優良品目・品種への転換や生産基盤の改善を推進するとともに、6次産業化等の産地の前向きな取り組みを支援していく。果樹における基本指針の概要は次の通り。

【生産性の向上等に向けた取り組み】

意欲ある農業者の確保・育成には、生産性の向上と経営規模の拡大等を促すことが重要であることを踏まえ、優良品種・品目への転換や、園内道整備、園地の傾斜緩和等の作業性の向上に向けた基盤整備を進めるとともに以下の栽培技術の導入を推進する。

①着色管理作業が短縮可能となる優良着色系品種等の導入②わい性台木、梨の樹体ジョイント仕立て、低樹高仕立て等の省力化技術の導入③人工受粉を省力化する落葉果樹の溶液受粉技術や訪花昆虫の導入④作業時間の平準化のための作業時期の異なる品目・品種構成への転換⑤高所作業台車等の導入による作業の効率化・軽労化。

特に、加工仕向け果実においては、右記の技術を基礎に置きつつ、求められる品質を考慮し、弱摘果、着色管理作業の省略、収穫・集出荷作業の簡略化等による省力・多収型の栽培体系の構築を推進する。

産地においては、これらの農業者の取り組みを促すため、改植時の未収益期間短縮に資する大苗供給体制や、作業集中時の労働力不足を解消する労働力調整システムを構築するとともに、園地情報を整理し、意欲ある農業者へ園地を円滑に継承する体制を整備する。

流通段階では、産地の労働力、物流条件、実需者のニーズ等の変化に応じた安定的な供給連鎖（サプライチェーン）の構築に向け、生産者・中間事業者・食品製造業者等による一体的な取り組みや品質保持技術を活用したカットフルーツ等の新たな需要に対応した国産果実の取引等を推進するとともに、低コスト輸送体制の整備に向けた集出荷・貯蔵施設、加工施設等の合理化を促進する。

さらに、輸入品に一部依存している梨等の受粉用花粉について、基本的に産地において必要量が確保できる体制の整備に努める―など。

スピードスプレヤーの都道府県別出荷台数
（平成24年1月～12月、台）

		合計
北海道		18
青森		151
岩手		45
宮城		8
秋田		26
山形		128
福島		93
茨城		48
栃木		28
群馬		22
埼玉		18
千葉		41
東京		15
神奈川		14
山梨		234
長野		339
静岡		18
新潟		51
富山		8
石川		11
福井		1
岐阜		24
愛知		57
三重		15
滋賀		4
京都		3
大阪		2
兵庫		2
奈良		19
和歌山		14
鳥取		20
島根		3
岡山		29
広島		12
山口		5
徳島		10
香川		5
愛媛		8
高知		7
福岡		56
佐賀		14
長崎		8
熊本		36
大分		11
宮崎		19
鹿児島		11
沖縄		1
合計		1,712
輸出		－

木村氏らに大臣賞
果樹技術経営コンクール

果樹の技術や経営で優秀な実績を刻み、産地形成の上で先進的な役割を果たす果樹栽培者・団体を表彰する「第15回全国果樹技術・経営コンクール」（同コンクール実行委員会主催）の受賞者が決定した。農林水産大臣賞には木村才樹（青森、リンゴ）▽広瀬金重・寿美恵（山梨、ブドウ）▽後藤剛・美和子（静岡、柑橘）▽ながみね農業協同組合下津柑橘部会（和歌山、柑橘）が、農林水産省生産局長賞にはみなみ信州農業協同組合果実協議会梨部会（長野、梨）▽尾崎恭啓・弘子（愛知、柑橘）▽秋山登・紀子（香川、柑橘）▽山本剛・中紀（愛媛、柑橘）▽越智春樹・幸子（大分、柑橘）▽石垣島パイン生果組合名蔵（沖縄、パインアップル）がそれぞれ選ばれた（敬称略）。

・低コスト化に大きな期待

農林省の野菜対策
機械化一貫体系導入へ
増加する加工・業務用に対応

日本農業にとって、重要なポジションを占める野菜・畑作。野菜は産出額が約2兆円あり、畜産や米の産出額に匹敵。カロリーベースによる食料自給率への寄与は6％と低いものの、生産額ベースでは24％と4分の1を占めている。日本の野菜生産は主に主業農家によって担われているものの、昨今は農家の減少や高齢化が進行。さらに野菜は機械化が遅れていることから水稲に比べ収穫や調製・出荷に労働時間が多く割かれており、機械化一貫体系の導入による省力・低コスト化、規模拡大に期待がかかっている。野菜・畑作における施策や需給動向、最新技術などを特集する。

本格的な機械化への期待が高まる野菜作

農林水産省はこのほど、野菜・果樹・花き対策について報道向け勉強会を開催し、同省生産局農産部園芸作物課長の菱沼義久氏が説明を行った。菱沼氏は野菜、果樹、花き及び施設園芸をめぐる現在の情勢を説明した後、それぞれに対する対応や施策を紹介した。

そのうち野菜については、「まだまだ工夫次第で農業所得が稼げる分野。施策を行っていく必要がある」と期待を寄せ、積極的に支援を行う意向を表明。国内の野菜需給については、消費量が減っている一方で、輸入量や加工・業務用野菜需要は増え、また、野菜の価格や供給量の変動幅が大きく、課題となっていることなどから、機械化一貫体系の導入をはじめとした加工・業務用需要への対応や、計画的な生産・出荷体制の構築、野菜価格の安定等を進めていくとした。

具体的には、①加工・業務用野菜生産基盤強化事業（新規）＝防除やマルチ・べたがけ等の資材をはじめとした作柄安定技術を導入する際に、定額の面積払いで当該経費の一部を支援②国産原材料供給力強化支援事業の拡充＝加工・業務用野菜生産を加速化するため、新技術や機械化導入を支援③野菜価格安定対策の拡充＝著しい価格下落時に生産者に補助金を交付。26年度は指定産地の面積要件を25㌶から20㌶に引き下げるほか、輸入急増野菜であるアスパラガスについては、生産者負担割合を4分の1に軽減。また、加工・業務用野菜の生産農家が不作時にも所得安定が図られるようセーフティネット措置を導入―などを実施していく予定。

野菜移植機の都道府県別出荷台数
（平成24年1月～12月、台）

	野菜移植機 全自動 乗用型	全自動 歩行型	半自動 乗用型	半自動 歩行型	いも類植付け機	合計
北海道	56	55	43	95	136	385
青森	－	4	8	48	4	64
岩手	－	14	1	36	－	51
宮城	－	5	2	44	3	54
秋田	－	－	1	45	1	47
山形	－	1	－	56	3	60
福島	－	1	3	64	5	73
茨城	－	55	5	60	46	166
栃木	－	3	14	34	7	58
馬	1	47	71	76	7	202
玉	－	4	14	203	15	236
葉	－	12	85	112	7	216
京	－	－	－	24	－	24
川	－	3	29	24	3	59
梨	－	1	－	2	－	3
野	－	14	4	50	3	71
岡	－	5	6	17	2	30
潟	－	2	5	33	8	49
山	1	1	－	17	2	22
川	2	1	2	14	2	19
井	－	1	2	23	13	39
阜	－	1	9	13	2	30
知	1	5	10	19	10	227
重	3	185	12	16	7	37
賀	－	12	2	8	7	30
都	2	1	12	8	1	11
阪	－	－	2	7	1	25
庫	－	2	7	15	8	106
良	－	48	9	41	－	11
山	－	1	1	9	4	18
取	－	－	3	11	3	46
根	－	16	6	21	2	8
山	－	1	－	5	8	25
島	1	3	1	12	－	25
口	1	3	5	16	－	20
島	1	5	3	11	5	48
川	－	－	10	33	2	18
媛	－	3	2	11	8	25
知	1	1	3	12	1	5
岡	－	1	－	3	9	104
賀	2	2	37	54	1	126
佐	1	12	74	38	11	37
長	－	1	7	18	16	90
熊	1	1	13	59	1	38
大	－	2	9	26	22	86
宮	1	8	7	48	38	110
鹿児島	3	16	7	46	2	7
沖縄	－	1	1	3	－	3,241
合計	78	559	535	1,633	436	19
輸出	－	－	－	19	－	

キャベツ価格平年並
生鮮野菜の購入が増加
野菜の需給・価格動向

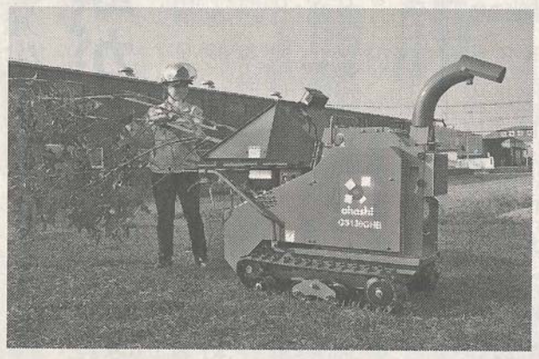
農畜産業振興機構がまとめた「野菜の需給・価格動向レポート」（4月14日版）によると、キャベツやネギ、ハクサイ、トマト、ナス、ニンジン等は概ね順調な出荷が見込まれ、平年並みの価格で推移すると見通されている。それに対して、ホウレンソウやタマネギ、キュウリなどは平年より高めの推移が予想されている。

また、野菜の需要動向については、総務省の「家計調査」によると、2月の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は464㌘で前年比102％、購入金額は1742円で同105％となり、購入数量、購入金額ともに前年をやや上回った。

東京都区部における主要野菜の小売価格について小売物価統計をみると、3月のキャベツの小売価格は1㌔当たり200円で過去5カ年平均に比べ100％、レタスは同466円で同93％となった。どちらの品目も前月に比べて大きく値下がりしていた。

一方、2月の野菜の輸入を貿易統計でみると、生鮮野菜は前年比117％の8万3607㌧、加工野菜は同95％の12万1965㌧、野菜全体は同102％の20万3803㌧となった。このうち中国産野菜合計は同93％の9万1874㌧となっている。生鮮野菜の輸入量が前年を大幅に上回ったことから、野菜全体において前年を上回った。

剪定枝・枝折れ、改植・倒木を減容・資源化
今や果樹園の必須装備 ≪最大処理径7cm～20cm超の14機種≫



樹木粉砕機　GS130GH
☆最大処理径130㎜
☆最大出力 14.0ps
☆最大処理能力2.8㎥/h
☆排出ダクトの高さ・方向は可変式
☆均一チップ製造
☆上部ホッパー(オプション)を使うとチップの二次粉砕、果実・野菜クズの粉砕にも活躍します。

ohashi ECOLOGICAL TECHNOLOGY
株式会社 大橋
佐賀県神埼市千代田町崎村 401
TEL0952-44-3135　FAX0952-44-3137
E-mail eco@ohashi-inc.com
ホームページで動画公開中
http://www.ohashi-inc.com/

Nagata
空気吸い込み量アップで霧の遠距離を実現！！
The Anniversary 60 SINCE 1954
ビッグフード効果
遠距離ピストル最軽量（435g）（当社品比）
ライトガン
きりなが霧長くん
新商品

詳しくはWEBで!!
永田製作所　検索
スプレーノズルのパイオニア
株式会社永田製作所

本社	大阪府 大阪市西淀川区千舟1丁目5－41	TEL.06-6473-0835
(株)北海道永田	北海道 札幌市東区北47条東16丁目1番8号	TEL.011-784-3881
(株)東北永田	福島県 福島市春日町1番34号	TEL.024-534-1451
(株)永田東海	静岡県 静岡市葵区横田町7－12	TEL.054-251-1566
(株)永田名古屋	愛知県 名古屋市港区品川町1丁目41番地	TEL.052-651-5599
(株)和歌山永田	和歌山県 紀の川市嶋131－5	TEL.0736-73-4907
(株)永田製作所四国	愛媛県 松山市古川北1丁目23－2	TEL.089-956-8131
(株)永田製作所中国	岡山県 岡山市東区竹原1142－1	TEL.086-297-6623
(株)九州永田	熊本県 熊本市南区南高江町6丁目3番28号	TEL.096-357-2602

製品情報　噴霧動画

乗用草刈機　RABBIT MOWER　ラビットモアー
発売22年　OREC

…より早く！より美しく！より楽に！ 新製品では、お客様要望を満載しております。
スピード＆パワフル 草刈時間の大幅な短縮と快適な作業をお約束します。
※価格は税抜表示しております。

株式会社 オーレック　http://www.orec-jp.com
本社/福岡県八女郡広川町日吉548-22　営業所/仙台・関東・長野・名古屋・岡山・福岡・鹿児島

農機業界のガイド誌
農機実業総覧
第50版・2014年版
●B5判 600ページ　●15,239円（税込）（送料450円）
好評発売中!!
一般農機販売店、系列販社拠点、ＪＡ（農協）グループ農機事業拠点、農業機械メーカー営業拠点など、再編が進む農機業界の変化を毎年の調査で把握。また、関連行政機関、団体、統計資料を網羅している。
株式会社 農経新報社　本社：TEL 03-3815-0211　FAX 03-3815-0265　支社：TEL 06-6341-1021　FAX 06-6341-1023
URL/http://www.n-simpo.co.jp/　E-mail/info@n-simpo.co.jp　sisya@n-simpo.co.jp